

「紅茶でココロとカラダを豊かに」 宇都宮から元気を広めたい

1000の商材から選抜した紅茶 で地元の活性化に貢献

栃木県宇都宮市にあるワイズティーネットワーク株式会社は、紅茶をツールにさまざまな夢に挑んでいる企業だ。「一杯の紅茶を通じて、地域・福祉・医療・スポーツ・教育・食育など、幅広いジャンルの人・モノ・コトを元気に笑顔にする会社です」と、創業者で代表取締役社長の根本泰昌氏は語る。創業前は製薬会社に勤めていた根本氏だが、あるときから「ストレス社会と呼ばれる現代、薬の力では助けられない人が存在するのではないだろうか」と考えるようになった。「この現状を何とかしたい」。これが根本氏の起業理由だ。

また、幼少期に栄えていた地元の商店街が今は人もまばらな状態になっていることに対して、帰省の度に危機感を持ち、地元の活性化に貢献することこそ自らの使命だと考えるようになった。「心身ともに健康に過ごす人を増やし、地元の活性化にも貢献したい」。そんな思いを具現化する最適な



旅行会社が同社の店舗で紅茶を学び、味わうためのツアーを組んだこともあるという。

ものとは何だろうか。根本氏は5,000のキーワードを紙に書き出し、「持続可能性」、「老若男女が対象となること」、「副作用がないこと」、「それによって笑顔になること」、「栃木がかっこよくなれること」など20の条件で精査した。そしてそれをすべて満たした唯一のものが、「紅茶」だった。

同社では、紅茶の販売、紅茶教室、ティールーム、加えてご当地紅茶および企業紅茶と、4部門が複合して、創業目的を形づくっているが、こうした創業の理念を各部門の社員に理念を浸透させ、方向性を一致させるために、日報ノートを活用している。「携帯のメールでもできますが、やはり手書きで書く気持ちも伝わりやすいので、創業当時から続けています」と根本氏。一人一人の日報に、赤ペンで二重丸やコメントを加え、意思疎通と方向性の確認を図っている。

現在は1店舗だが、社会のためにも将来は拡大したいという意向だ。そのため、同社の主要商品であるブレンド紅茶の生産方法は重要事項だ。



手書きのメニューブックは、社員で相談しながらつくり上げる。

すでに、紅茶教室やイベントの講師は、根本氏だけではなくスタッフも担当する。また、多様な茶葉のブレンドレシピは0.1グラム単位でつくっており、根本氏でなくとも工場生産可能な体制だ。

ストーリーのあるブレンド紅茶 で経営理念を実現

同社は「紅茶を通じてココロとカラダを豊かに」を企業理念とし、紅茶を通じた顧客の笑顔を増やすことによって、結果として業績が伸びてくると考える。

そのため同社では、独特の方法でオリジナル紅茶のブレンドレシピを開発している。素材ありきではなく、一つ一つのブレンドにまず背景となるストーリーやターゲットを設定し、それに応じてブレンドしていくのだ。例えば、社会進出する女性に対してストレスを緩和し元気になるってほしいという気持ちを込めた「アントワネット」というブレンドでは、女性の好きな花を取り入れて華やかさを演出し、寛ぎの香りを取り入れ、ストレス緩和などの効果を合わせている。こうした独自ブレンドは50種を超え、店頭にも常に20種類以上が並んでいる。

こうした同社独自のブレンド方法を活用し、各地の自治体や団体からの依頼を受けた「ご当地紅茶」開発も行っている。当初手がけたのは、地元宇都宮のプロスポーツチーム応援紅茶や、ご当地グルメとして有名なギョー



社員は「紅茶ではなく、元気を提供する」という意識が高い。「元気のなかったお客さまが、紅茶を飲んで一息ついて、元気になってお店を出ていく姿を見る」ことが働きがいだという。

ザに合う紅茶など。そうしたユニークな紅茶は話題を呼び、大手企業からの引き合いも増えていった。ある大手ホテルからの依頼では、ブレンドレシピの開発だけではなく、チェックインの際にルームキーと一緒に紅茶を渡すといった活用提案まで行ない、その後の定期利用につながった。

こうした実績を積み重ねることで同社のブランド力は向上。今では県外の顧客も多く、旅行会社が、同社の店舗で紅茶を飲むためのツアーを組んだこともあるほどだ。創業当初、多くの人が「栃木県で紅茶は売れない」と反対した。しかし2006年の創業後は全国43位だった宇都宮市の紅茶消費量は、2008年～2010年の平均で全国1位になるまで上昇。毎日通う常連客の一人は、県内を中心に年間100を数える根本氏の紅茶教室と講演活動が功を奏したのではないかと話す。活発な紅茶消費の一翼を担う同社には、遠方から

新幹線で紅茶教室に通う人や、出店用の土地を用意して待っていてくれる人もおり、顧客の支持の大きさが感じられる。

地域・顧客も巻き込み 地域活性化を実現

同社は自店のみならず、商店街、宇都宮市、そして栃木県へと、紅茶を通じた地域活性化の場を広げている。たとえば、常連客や紅茶教室の生徒の希望者と共に地域の清掃活動を行っており、今では習慣化している。根本氏は「活動は難しいことではないと思います。『地域活性化の力になりたいけれど、何をしたらいいかわからない』という方には、『毎日商店街を歩くだけでいいんです』とお伝えしています」と笑顔で語った。現在では町ぐるみで地域イベントなどを行なっている。また、紅茶の魅力を感じた校長先生



店内には、目的別に配合されたブレンド紅茶が並ぶ。



小学校の紅茶部。子供たちは「お母さんにも紅茶を入れてあげたい」と笑顔で話す。

の依頼から、地元の小学校に「紅茶部」を創設した。紅茶を通じておもてなしを学ぶ子供たちは、あいさつや感謝も同時に知り、本人、親、学校のいずれもその効果を喜んでいる。

その他、栃木県と東京都を中心に、障がい者施設に出張して、紅茶の入れ方を指導する「ティーセラピー」と呼ぶ取り組みを行なっている。例えば全盲の方であれば、どこまでお湯を注いだら良いのかわからないので、ティーポットの淵に指を当ててその温度変化で調整するなど、障がいに応じた紅茶の入れ方をサポートする。参加者やその家族からは、自分で紅茶を入れられるようになるとは思わなかった、生活の幅が広がったと、大変喜ばれている。

今後も同社は、宇都宮から栃木県へ、そして全国へ、「紅茶を通じてココロとカラダを豊かに」の思いを全社員で発信していく。

会社概要

- ・法人名：ワイズティーネットワーク株式会社
- ・代表者：根本 泰昌 代表取締役社長
- ・所在地：栃木県宇都宮市曲師町5-3 タキヤビル2F
- ・設立年月：2006年5月
- ・資本金：3,000,000円

- ・ホームページ：http://www.y-tea.com/
- ・社員数：正規5名、パート・アルバイトなど1名
- ・事業内容：紅茶・ハーブティー等の小売卸業、紅茶教室の運営、オリジナルブレンド紅茶のプロデュース業、地域活性化支援事業、紅茶・地域活性・食育などの講演活動